

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：高松 諭

事業名	一般国道180号 <small>おかやまかんじょうみなみ</small> 岡山環状南道路	事業区分	一般国道
起終点	自： <small>おかやま</small> 岡山県岡山市南区藤田 至： <small>おかやま</small> 岡山県岡山市南区古新田	延長	2.9 km
事業概要			
<p>一般国道180号は、<small>おかやま</small> 岡山県岡山市北区から <small>しまね</small> 島根県松江までを結ぶ延長約174kmの主要幹線道路である。 <small>おかやま</small> 岡山環状南道路は、岡山県南部の中央に位置し、<small>おかやま</small> 岡山県岡山市南区藤田と <small>おかやま</small> 岡山市南区古新田を結ぶ延長2.9kmのバイパスである。 事業目的は、岡山市都市部で発生している交通渋滞の緩和、交通安全の確保、物流ネットワークの形成を図るものである。</p>			
H21年度事業化	H20年度都市計画決定	H23年度用地着手	H24年度工事着手
全体事業費	約408億円	事業進捗率 (令和5年3月末時点)	約86%
		供用済延長	0.0 km
計画交通量	23,700 ~ 89,600 台/日		
費用対効果 分析結果	B/C(3便益) <small>(事業全体)</small> 2.3	総費用 <small>(残事業)/ (事業全体)</small> 82/460 億円	総便益 <small>(残事業)/ (事業全体)</small> 1,038 / 1,038 億円
	<small>(残事業)</small> 12.6	事業費 : 59/437 億円 維持管理費 : 24/24 億円	基準年 : 令和5年 (走行時間短縮便益 : 920/920 億円) (走行費用減少便益 : 102/102 億円) (交通事故減少便益 : 16/16 億円)
感度分析の結果			
(事業全体) 交通量 : B/C=2.2~2.3(交通量±10%) (残事業) 交通量 : B/C=12.1~12.6(交通量±10%) 事業費 : B/C=2.2~2.3(事業費±10%) 事業費 : B/C=11.7~13.5(事業費±10%) 事業期間 : B/C=2.2~2.4(事業期間±20%) 事業期間 : B/C=12.2~13.0(事業期間±20%)			
事業の効果等			
①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失時間の削減が期待できる。 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・国道30号を利用するバスの定時性向上が期待される。 ・玉野市から岡山空港へのアクセス向上が期待される。 ②物流効率化の支援 ・総社市から岡山港（重要港湾）へのアクセス向上が期待される。 ③都市の再生 ・広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する。 ④国土・地域ネットワークの構築 ・高規格道路「岡山環状道路」の一部として位置づけ。 ⑤個性ある地域の形成 ・玉野・渋川（海水浴場等）（R4観光入込客数：約259万人/年）へのアクセス向上が期待される。 ⑥災害への備え ・第一次緊急輸送道路である一般国道30号の代替路線として機能する。 ⑦地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が期待される。 ⑧生活環境の改善・保全 ・NOX排出量の削減が期待される。 ・SPM排出量の削減が期待される。 ⑨他プロジェクトとの関係 ・一般国道2号岡山倉敷立体（I期）（R4年度事業化）、一般国道180号岡山西バイパス（西長瀬～櫛津）（R2年度事業化）、総社・一宮バイパス（S48年度事業化）と一体的に整備。 ・第3次晴れの国おかやま生き生きプラン（R3.3）において「企業誘致・投資促進プログラム」の重点施策「交通基盤整備」に位置づけ。 ・岡山市第六次総合計画後期中期計画（R3.6）において「人と環境にやさしい交通ネットワークの構築」の重点施策「道路ネットワークの充実・強化」に位置づけ。			

関係する地方公共団体等の意見

「早期整備を望む。」という要望が、一般国道180号岡山県整備促進期成会（岡山市長・岡山市議会議員・総社市長・総社市議会議員・高梁市長・高梁市議会議員・新見市長・新見市議会議員）から出されている。

岡山市長の意見：異議ありません。

一般国道180号岡山環状南道路は、岡山市の外環状線の一部を構成し、市道藤田浦安南町線と接続することにより、岡山市中心市街地や国道2号の渋滞緩和、物流の効率化による産業振興に大きく寄与する重要な道路であるため、令和6年度の開通に向けた着実な整備を要望します。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。
審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・岡山西バイパス側道部の全線開通および国道180号総社・一宮バイパスの部分開通による交通集中や周辺開発の増進、人口増加に伴い、渋滞や交通事故が発生している。
・国道180号総社・一宮バイパスが部分開通、市道藤田浦安南町線が開通、国道2号大樋橋西交差点の立体化が完了し、岡山環状道路として一体的整備が進められている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和5年3月末時点で、事業全体の進捗率は約86%、用地の進捗率は100%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

現在、工事推進を行っており、令和6年度開通を目指し事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、事業を推進していく。

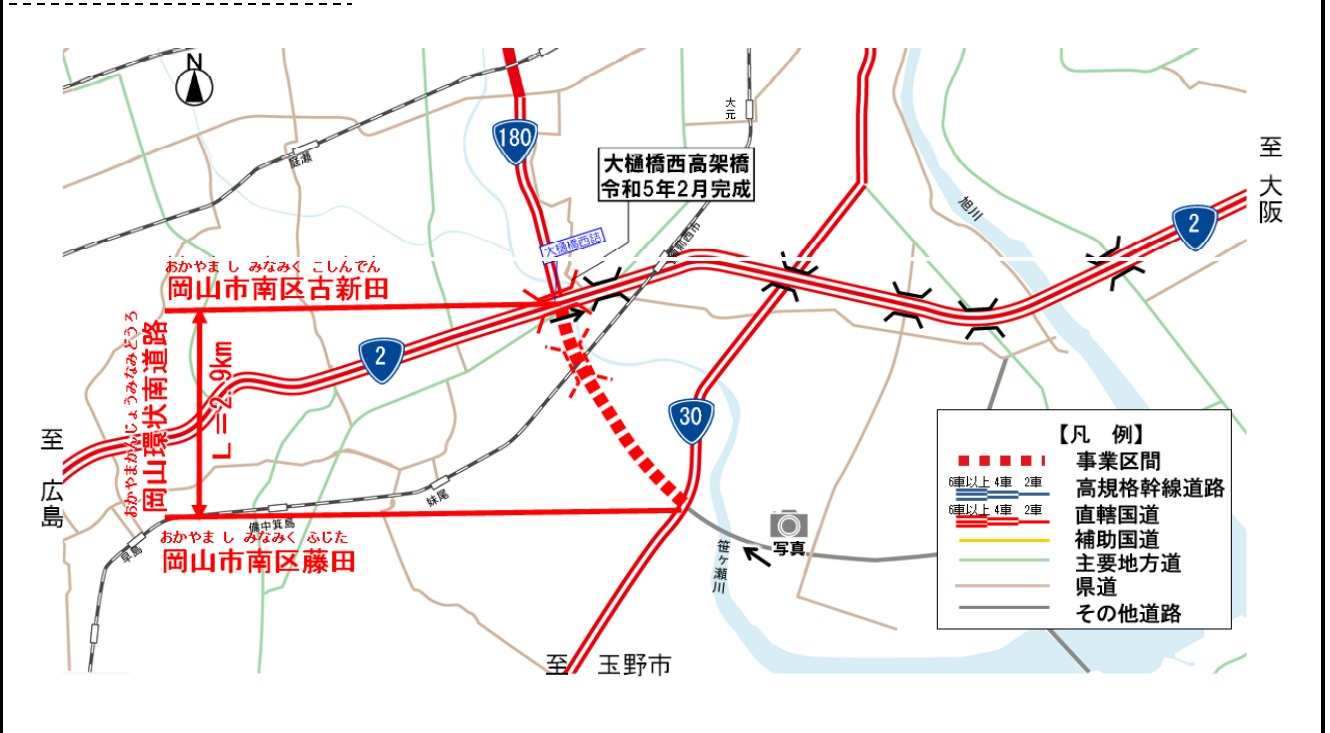
対応方針（原案）

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。